



～協会からのお知らせ・インフォメーション～

◇中国料理教室の参加者募集♪

中国の国際交流員張麗霞さんちょうれいかによる中国料理教室を開催します。中華料理を作ったり、中国の文化について話せる楽しいイベントです♪

日時： 2024年12月21日(土) 10:00～13:30
場所： 都城市コミュニティセンター 1F 調理室
参加料： MIA会員 600円
会員以外の方 1000円
定員： 20名(先着順)
持参品： エプロン・筆記具・マスク
メニュー： 酸菜肉丝
(高菜と豚肉の細切り炒め)



お申込み： (一社)都城国際交流協会(MIA)まで
電話またはEメールでお願いします。
電話 0986-23-2295
E-mail mia@btvm.ne.jp



◇中国語入門講座、終了しました

中国の国際交流員張麗霞さんによる中国語入門講座を2024年10月3日～10月31日まで開催しました。たくさんのご参加ありがとうございました。感謝～!



トーク アンド トーク

◇ TALK&TALK 英会話サロン 参加者募集!

食事をしながら、ネイティブスピーカーと気軽な雰囲気です。英会話を楽しみませんか。

日時： 11月26日(火) 19:00～21:00
場所： インド料理 ムーナ
(都城市中原町31-8)



参加料： MIA会員 500円 非会員 1000円
定員： 9名(会員優先・先着順)

※飲食店を利用させていただきますので1人1品、飲み物か食べ物の注文をお願いします。飲食代は別途各自ご負担となります。

お申込み： (一社)都城国際交流協会(MIA)まで
電話またはEメールでお願いします。
電話 0986-23-2295
E-mail mia@btvm.ne.jp



◇ワールド・フェスタ in みやこのじょう2025 開催!

ワールド・フェスタ in みやこのじょう2025を開催します。皆さまのご来場をお待ちしています。

日時： 2025年1月26日(日曜日) 12:00～17:00
会場： 都城市総合文化ホール
参加料： 無 料

内 容：

- ・世界の様々な国の人との交流・遊び体験
 - ・海外のダンスや外国人による演奏など
 - ・国際交流・協力団体などの活動紹介パネル展示
- ※ウォークラリーで、先着150人に景品があります

☆ボランティアスタッフ募集中!

当日のブース準備、終了後の片付け、国紹介ブース補助、ステージ受付・案内、ステージ裏補助等

*希望者多数の場合、調整させていただきます。

ご了承ください。

◇お問合せ先：

(一社)都城国際交流協会まで、電話またはEメールでお願いします。

電話 0986-23-2295

E-mail mia@btvm.ne.jp

～都城市青少年モンゴル訪問団事業に参加して～ 山内琴葉さん(都城市立祝吉中学校一年)



今回のモンゴル青少年派遣で、私は日本では絶対に行けないことを経験することができました。

私は、モンゴルに行くまでは、モンゴルは草原とゲルのある風景のイメージしかありませんでした。ところが、モンゴルの首都のウランバートルは高いビルがたくさん立ち並び、想像していたモンゴルと違って、とても都会で驚きました。

大都会のウランバートルの渋滞にびっくりしたことや、ウランバートルから少し離れたところにあるテレルジでの宿泊体験、乗馬体験やナーダム祭の体験など、たくさんの初めての経験がありました。私が、モンゴルでの活動で特に忘れられない出来事は、テレルジで乗馬体験が終わった直後に雹(ひょう)が降ってきたことです。見たこともない大きな氷のかたまりが空からたくさん降ってきてみんなで走ってゲルに避難しました。モンゴルは日本と違って空気がカラッとしていたり、雹が降ったり、同じアジアなのに、こんなに気候が違うことを体感することができました。

色々な経験ができましたが一番良かったことは、モンゴルに行ってたくさんの友達に会うことができたことです。交流プログラムでは、中国、韓国、ロシア、タイの四カ国の人と一緒に過ごしました。人と交流することの楽しさと大切さについて学びました。

私は今まで、他の国の人と交流する機会があまり無かったので、モンゴルに行くまで外国の人と交流することが不安でした。けれど、このプログラムで外国人の友達と一緒にいて、ホテルも一緒だったので、每晚



夜遅くまでみんなで集まって話をしたりゲームをしたりして、みんなと仲良くなりました。

日本に帰る前のお別れ会では、四カ国のみならず時間を過ごしました。モンゴルと一緒に過ごした時間はたったの数日だったのに、せつかく出会って仲良くなった友達と過ごした思い出が頭の中を巡り、私は友達との別れが悲しくてたまらなくて、涙がとまりませんでした。今まで生きてきた中で一番泣いたかもしれません。



私はたくさんの出会いの中でも、韓国人のダウォンちゃんが一番仲良くなりました。ダウォンちゃんとは、一日目の自己紹介の時に、ダウォンちゃんが日本語で話してくれたことをきっかけに仲良くなりました。私は、K-POPが大好きで、韓国に興味が出てきて、一度だけ韓国に行ったことがあります。今回、ダウォンちゃんとお会いしたことで、もっと韓国のことについて知りたくなりました。

そして、モンゴルから帰ってきて2カ月が経っている今も、ダウォンちゃんとはインスタグラムのダイレクトメッセージで毎日会話をしています。食事などの画像を送りあったりして、お互いの文化などについて少しずつ知ることができています。この前は、ダウォンちゃんが韓国のうどんの写真を送ってくれたので、私は日本のラーメンの写真を送りました。



ダウォンちゃんともっと仲良くなって色々な話をしたいので、韓国語の勉強を続けています。

最初は、モンゴルに行くことに不安がありましたが、チャレンジしてみることで、自分が思っていたような出来事が待っていて、そのおかげで世界が広がるのだなと感じました。

今回の青少年派遣で他の国の人と交流をしてたくさんの貴重な経験がすることができました。自分が生活している日本が全てではなくて、色々な文化があり、世界は本当に広いことを知りました。この経験をこれからの自分に活かして行きたいです。

◇MIA NEWSに記事を書きませんか

自分の国の紹介、海外旅行記、海外留学体験記、ホストファミリー体験談、各国際交流・協力団体の活動など、国際交流・協力に関する記事を記事に書いてみませんか。

1200字程度で、写真1～2枚、文字数は1200字以下でもかまいません。1200字以上書きたいという方は協会にご相談ください。名前を掲載したくないという方も考慮いたします。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。



「クリスマス」

～都城市アメリカ国際交流員 セスさんによるアメリカ紹介～

現代では、クリスマスは日本で
も良く知られている行事であり、
皆様もある程度祝ったことがあ
るでしょう？しかしながら、近代
のクリスマスと元々のクリスマス
はかなり異なっており、今回の記
事では日本人にあまり知られてい
ないクリスマスの側面を解説して
いきたいと思います！



セスのお母さんとサンタ

まず、なぜ「クリスマス」と呼ぶのでしょうか？

クリスマスのルーツはキリスト教にあり、イエス様の誕生を祝う行事です。そして、英語的に言えば、イエス様の名前は「キリスト(Christ)」で、最初の文字の発音を微調整してクリスマスという言葉の前半部分になりました。後半部分は、カトリックのミサという単語に由来します。英語の発音では「マス(Mass)」になり、キリストの「ト」を削除し、両方を組み合わせて「クリス+マス」となります。つまり、「クリスマスはイエス様の誕生を祝う日」ということです。

より詳しく知りたい方には、次のセス伸(追伸+セス=セス伸)をご参照ください。

「ミサ」は、カトリック教会の中心的な礼拝で、聖体拝領の儀式を行い、神に感謝の祈りを捧げる祭儀です。

また、クリスマスを「X-mas」と書くようになったのは、ギリシャ語で『キリスト』の頭文字がX(カイ)で始まることに由来します。Xは、イエス・キリストの名前を短縮したものです。「X-mas」は、キリスト教ではない人々がクリスマスを祝うときに使われることがありますが、本来はキリスト教的な意味合いを持っています。

次に紹介するのは、あまり知られていないクリスマ

スの風習である「降誕場面(ナティビティシーン)」です。これは、イエス・キリストの誕生の場面を表した模型の展示を指します。アメリカでは、家庭ごとに異なりますが、イエス様が生まれた瞬間を家の内外に飾ることがあります。これらは様々な素材で作られており、家庭だけでなく、ショッピングモールやお手洗いなど、あらゆる場所で見ることができます。また、家族ごとに降誕場面が持つ意味や解釈も異なるかもしれません。

また、降誕場面で不可欠なのは、イエス、イエスの母マリア、その夫ヨセフ、天使、羊飼い、東方の三博士、そして牛やロバなどの家畜です。これらの人物や動物は、家畜小屋や洞窟の中に等身大または小型の人形として配置されます。これら全てが欠けることなく揃っているのは、それぞれに深い意味があるからです。

よく「それぞれに意味がありますよ!」と言われるものの、最もよく見られるのは、教会の正面入り口に置かれた等身大の降誕場面かもしれません。

セス伸：「僕のお母さんは、いつもトイレに降誕場面を飾り付けていた」(笑)

私が紹介した以外にも、海外にはまだまだ知られていないクリスマスの風習が数え切れないほど存在します!たくさんあるからこそ、皆さんも英語圏の友達を作って、その友達がどのようにユニークなクリスマスを過ごしているか尋ねてみてください。

クリスマスは、キリスト教徒でなくても、老若男女を問わず、誰でも楽しく過ごせる行事です。



セスのお父さんとサンタ



「モンゴルの伝統的な風邪対策」

～都城市モンゴル国際交流員 ヒシゲさんによるモンゴル紹介～

最近、朝晩冷え込んできましたね。私の故郷モンゴルでは既に夜の気温が氷点下になりました。モンゴルは平均標高が1500mと日本の4倍くらい高いため、冬はマイナス30度以下になることもあります。



ウイルスは死滅する寒さですが、年中乾燥しているのが風邪を引きやすいです。特に季節の変わり目のこの時期に風邪を引く人が一番多いです。海から遠く離れた大陸性気候で雨が少なく、空気も乾燥しているためなのか、私は子どもの頃よく、喉からくる風邪を引いていました。ということで、今回はモンゴルの伝統的な風邪対策を紹介したいと思います。

モンゴルでは風邪をひいたら、もちろん病院に行き

ますが、風邪の症状が出始めたときに食事を中心とした祖先伝来の民間療法で治したりします。

チャツアルガナ(サジー)

ビタミンたっぷりの果実で、ホットドリンクにして飲みます。油脂にはビタミンC、ビタミンA、ビタミンEが含まれているので免疫力を高めると言われています。



アールツ(乳製品の飲み物)

乳製品からできる、風には欠かさない栄養ドリンクです。味は日本の甘酒に似ています。寝る前に飲むと風邪の症状を和らげるシンプルな方法です。

馬肉スープ

馬肉は冬の寒さに耐えるための貴重な栄養があると

言われています。長引く風邪と熱がある時に、馬肉とにんにくのスープを飲んで寝ると、次の日は元気になります。



岩塩

喉が痛いときは、岩塩を入れた水でうがいをするとうの痛みがすぐとれます。

重曹水・塩水の吸入

咳が止まらない、鼻づまりによく利きます。吸入器

などが普及していなかった時の家庭療法です。お湯に重曹(塩)を適量入れて、蒸気が出ないようにタオルや布団などを被ります。10~15分ほど蒸気を吸ったり、吐いたりするだけです。

シャルトス(黄色い油)

牛乳を沸かしたら上にできる膜つまり、「ウルム」と呼ばれる脱脂乳を加熱して水分を蒸発させたバターオイルです。空咳と痰のあるときに、シャルトスで胸と背中の温感マッサージをします。

編集部より

皆さん、こんにちは。皆さん、ハロウィンをどのように過ごされましたか？ 都会では路上飲酒禁止だの、DJポリスの出動だの、と今年も何かと話題になっていましたね。

我が家では10月下旬に霧島のあるホテルに宿泊したのですが、なんと、そこにたくさんのワンちゃん用ハロウィングッズがあるではありませんか!! こりゃあ、もうたまらん! と我が家の愛犬アニーちゃんに着せたり、かぶせたりして、親バカ二人はご満悦。でも、当のアニーちゃん、ブンブンと頭を振り続け、ついには三角の魔女帽子を振り落としてしまいました。もう少しで可愛い写真が撮れたはずなのに…

親の心、子知らず。子の心、親知らず。ってこういうこと? ではないですね(笑)

[亀谷]

皆さん、こんにちは。今回もこりずに『全国行ったつもりでぶらり旅コメント』つづけますよ-----m(。)m。

今回はおとなり県の大分県に行ったつもりいー

大分県といえば、私たち都城市に住む宮崎県民からするとすごく遠いイメージです(; ▽ ;)。実際に車で3時間以上かかり、高速なら3時間あれば福岡にも行けますもんね---

豊かな自然環境を生かした郷土料理や特産品、温泉、観光スポットが有名で、中でも「とり天」、「関アジ・関サバ」などの特産品や「別府温泉」、「湯布院温泉」など全国屈指の源泉を有する『おんせん県』ですよ〜。

そんな大分県は、知る人ぞ知る[吉四六さん(きつちよむさん)]が実在したとされている村があります。知らない人のためにお話ししますと、吉四六さんの話は、頓頃(とんち)や奇言奇行で有名な話が多く、一休さんや熊本の彦一さんと並ぶ日本昔話の[三大とんち者]のひとりです。

三大とんち者のひとり、彦一さんからとんち勝負を挑まれた際には、村の和尚さん立会いで百を数える間に世の中になくはならないものを作りなさいとお題を出されます。

まずは彦一さんが一体の案山子(かかし)を作り出し、和尚さんは感心したそうです。しかし、吉四六さんは「さすがに知恵者だが、これだけ?」と言うと「わしの勝ちだなぁ〜」と刈り取った芝を一本、二本…と数え始めたそうです。彦一さん「きつちよむさん、確かに数はそちらが上だが、刈っただけじゃないか」

吉四六さん「これはとんち比べの勝負だから、勝った(刈った)方が勝ちに決まってるじゃないですか」(´▽`)(笑)

ずるっ(コケッ)…とんちがきいて面白すぎて転んじゃいました…おー痛っ(@_@;) [西畑]

みなさん、こんにちは。急に冬になりましたね。通勤中、ほんのり金木犀の香りがして、済んだ空気の中を歩くことが心地良いです。

さて、私は先日太宰府天満宮に行ってきました。受験生の娘がどうしても行きたいと言っていたのに、夏の太宰府は最高気温38℃、さすがに涼しくなってからと思い、残暑暑い10月も我慢して、やっと実現した弾丸旅行でした。

参道は昔と違って新しいお店もたくさんあり、坂道を登っていただけでもワクワク(*^*)。食べ歩きをしている観光客の方と、七五三で訪れているかわいい子供たちがたくさんいらっしゃいました。

太宰府天満宮と言えば梅の絵柄が有名ですが、菅原道真公が梅を好んでいたことから、約6000本の梅が奉納されています。毎年、その梅の木から梅ちぎりをして、近所の園児たちと集めて、丁寧に梅干しにするのだそうです。それを11月1日、月次祭に合わせ初梅献上祭を行うようで、たまたま今年度の「初梅」がまだ並んでいました。これはラッキーだと思ひ、2つ授与していただいたので、娘の受験はばっちりでしょう!(楽観的)

日本で初物は縁起が良いとされていますが、海外にも同じような文化があるのでしょいか。今度、国際交流員に聞いてみよ〜っと♪ [中瀬]

10月にMIAで初心者向けの中国語講座を行いました。私は講師として五回講義をしました。とても感動したのは、初心者向けの講座ですが初

心者だけではなく、すでに中国語をマスターしても、やはり真剣に一人から勉強している方が何人もいるということでした。また、子供が中国語を勉強しているので、子供との共通の趣味を作って互いの理解を深め、親子間のコミュニケーションを活性化させるために勉強しているお母さんいれば、退職した母親の生活を豊かにさせて、一緒に思い出をつくるために母親を連れて講座に来ている娘さんもいました。本当に生涯学習と親子コミュニケーションの模範ですね。皆さんの熱心な勉強ぶりに励まされて、わたしも更にしっかりと講師としての腕を磨くようになりました。 [れいか]

皆様に今回、良い知らせをご報告させていただきます。

無事に韓国から帰ってきました〜〜イエイ〜!(^^)! 私は想像だに出来ない程方向音痴にもかかわらず、なんとなく一人で釜山にあるホテルに到着し、セスと集合しました。鏡を見たっていうことではないですよ。本当にもう一人のセスがそこにいました!…

いや、いた!いた!本当にいたんだ。いたってば!

だから、私はいかれてないんだ!信じてくれ——(;´Д`)……

…いたかな? 草

まあ、アイツのことを想像したかわからんけど、、同じセスって名前を共有する、京都に住むアメリカ人の親友と一緒に、韓国を旅行してきました。

お腹が爆発しそうになるまで韓国料理のフライドチキンを口に入れてちゃって、お腹がパンパンになったまま、風船であるかのように左右に揺れながら釜山やソウルを回ってきました。うちのパーティには、途中で屋台の辛い韓国料理に負けた戦士もいました。

というわけで、様々なことを勉強になりながら、韓国でたっぷりの時間を過ごしてきて、体の部位を無くすこともなく、今のマイホームである日本に無事に帰りました。腕も足も指も、頭までもちゃんと残っています。 [セス]

皆さん、サエンバェノ!

私の趣味の一つは山登りです。頂上に着く満足度と達成感より、途中の道が大好きです。周りの自然を意識を向け、可愛い花々や巨木に出会ったり、友達と楽しい時間を過ごしたりすることができます。都城に来てから、霧島連山はちょこちょこ登っています。この前、ずっと登りたかった「開聞岳」にやっと行きました!中国の国際交流員レイカさんが運転し、女二人で行ってきました。まるでリトル富士山のような!百名山とあって、登山道はよく設備されていました。2合目から4合目はほぼ山道で森の中ですが、5合目の展望台から頂上までのある大岩で綺麗な景色を満喫しました。一カ月ぶりの登山は最幸でした。やっぱり、私は山が大好きです。 [ヒシゲ]

島六観音御池をめぐる山歩きに行く予定です。2011年の新燃岳噴火で霧島から遠ざかっていました。以前のように長い距離を歩く体力はありませんが、久しぶりに、ゆっくり歩いてきたいと思います。2025年1月26日(日)、ワールドフェスタ2025をMJホールで開催します。多くの方のご来場をお待ちしております。 [藤元]

今月は、キムチ汁とビビンパの日もあれば、中華スープとチンジャオロースの日もあり。私も娘の学校の給食を食べてみたいです。 [迫田]

小さいときに祖母の家に、お客さんがたくさん来ていました。お客さんを大きくグループ分けすれば、兄弟から遠い親戚まで、祖母の近くに住んでいる友達、祖母の出身地つまり遠くの県からくる友達でした。親戚の中で海外に留学していた人たちが何人かいて、美味しいお土産はもちろん、お土産話もたくさん持って来てくれました。国内の遠くから来るお客さんもその地域の特産品とお土産話をたくさん持って来てくれました。今、思えばその頃が国際交流に目覚めた時期だったということに目覚めるとともに、母国の良さを理解できる貴重な講義を聴けた機会に改めて感謝しているところです。 [ソヨ]